

Y15a 「全国の高校生に君天を！ ver.2 姫路市宿泊型児童館・星の子館の試み」

塚田健、小関高明、秋澤宏樹(姫路市星の子館)、室井恭子、縣秀彦、浮田信治、福島英雄、古荘玲子(国立天文台)

国立天文台で1999年から始まった高校生を対象とした観測実習「君が天文学者になる4日間」(略称：君天)。これを全国に広めたい、なるべく多くの高校生に体験してもらいたい、という思いから、2009年8月17日から20日かけて、「君が天文学者になる4日間 at 姫路」を実施した。

当館は公開天文台のひとつと位置づけられており、90cm反射望遠鏡を備え、宿泊施設を併設している。観測装置は、冷却CCDカメラに加え低分散ではあるが分光器を備えており、これまで三鷹ではあまり行えなかった分光観測にも取り組んだ。研究テーマの決定から、観測、データ解析、考察、発表まで、高校生が主体となっていく「君天型」の指導方法はそのまま取り入れつつ、当館の強みを活かした活動ができ、高い教育効果が得られた。

また、参加は関東や中国地方からもあったものの、ほとんどが関西一円からの参加で、その後の研究指導や館職員との情報交換など、地域で実施したがゆえの利点も見られた。指導するスタッフも半数以上が地域の大学からの参加であり、ほとんどが「君天」未経験にも関わらず、大きな問題は生じなかった。これは、経験あるスタッフとともに指導するなど、これまでのノウハウを活用することによって、初めてのスタッフでもスムーズに指導することができ、国立天文台以外でも十分「君天」型指導を行えることを示している。研究発表会にも地域の大学の職員、高校教諭、科学館職員などの参加があり、このような地域での交流ができたのも重要な成果であった。

今回の発表では、「君天」のような活動を地方の公開天文台が行うにあたり、どのような利点があったのか、問題点が生じたのか、そしてどのような成果が得られたのかを、当日の様子も交えて紹介する。